

咸鏡北道オリニ結縁通信

第18号

2010年6月30日発行

朝鮮民主主義人民共和国（以下、北朝鮮）では、2009年から今年にかけて125万トンの食糧不足が発生するとの試算を国連食糧農業機関(FAO)が明らかにしました（今号6頁参照）。2009年は比較的良好な気象条件であったといわれているにも関わらず、依然として厳しい食糧状況が続いています。

そのような厳しい状況にありながら、北朝鮮に対する国際社会の支援の輪は縮小しており、世界食糧計画(WFP)の報道官によると、国連による支援の継続も難しい状況にあるといわれています。その要因としては、北朝鮮を取り巻く国際社会の目が一層厳しくなったことが挙げられます。2009年5月に北朝鮮政府が実施した2度目となる核実験は国際社会の大きな反発を招きました。また、2010年3月に発生した黄海上での哨戒艦沈没事件を巡って、朝鮮半島及び周辺各国の緊張が高まりました。このような状況の中で、国際機関による支援のみならず、民間からの支援も制限され、人道支援は困難な状況を迎えています。KEYがパートナー団体としている韓国JTS（Join Together Society）でも支援品目を慎重に検討しながら支援を実施しています。

今号では、その韓国JTSが行った支援活動の紹介をはじめ、国際機関の報告を中心とする各種情報、KEYの関連活動の報告をお届けします。

KEYでは1998～2006年までJTSによる羅先市（以前は羅津・先鋒）の幼稚園や託児所の子どもたちへの栄養食支援に協力する「羅先オリニ結縁事業」を展開してきました。それを引き継ぐ形で、2008年8月より「咸鏡北道オリニ結縁募金」を展開しています。

状況は厳しさを増すばかりですが、少しでも支援の輪が広がるように私たちは活動を続けます。今後ともご支援をよろしくお願い致します。

2009 年度「咸鏡北道オリニ結縁募金」報告

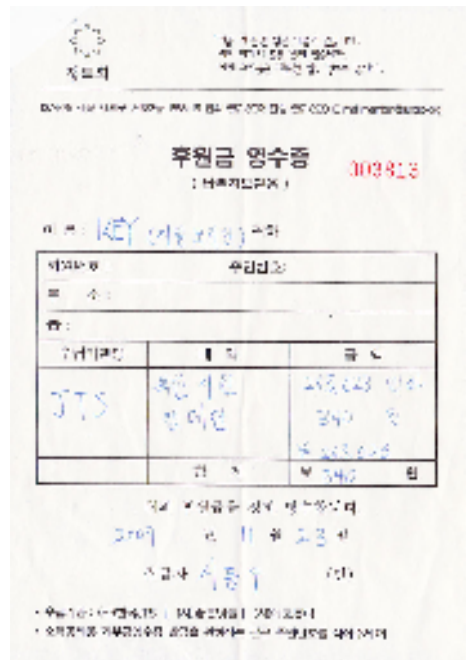
KEY が行った咸鏡北道オリニ結縁募金の 2009 年度分の報告を行わせていただきます。
ご協力くださった皆さまに心から感謝を申し上げます。

【2009 年度募金結果】

- ◆2009 年度の「咸鏡北道オリニ結縁募金」事業
によって **155,273 円**、及び **340 ウォン**の募金
をお預かりしました。
- ◆2008 年度の未伝達分 107,750 円と併せ、
263,023 円+340 ウォンを 2009 年 11 月 24 日
に JTS へ伝達しました。



▲ 김경희 事務局長に支援金を伝達
(JTS 事務所にて)



▲ 支援金を伝達し、受領した領収証

■ 以下は JTS の機関紙「美しい世界」81 号に掲載された報告記事です。(翻訳 : KEY)

○在日コリアン青年連合、北朝鮮の子ども支援の伝達式

12 月 7 日(※)、在日コリアン青年連合・康利行さんが JTS を訪問し、1 年間、日本 6 支部で北朝鮮の子ども支援キャンペーンで募金した 263,023 円を JTS に伝達した。在日コリアン青年連合は日本の在日同胞の集まりで東京、大阪など 6 地域で活動している。10 余年間、毎週日本現地で北朝鮮の子ども支援キャンペーンを行い、1 年に 1 回ずつ韓国を訪問し JTS に伝達している。

※KEY は別件で 12 月 7 日に JTS 事務所を訪問しました。その日付が記載されていますが、支援金を伝達したのは 11 月 23 日です。

JTS 北朝鮮人道支援キャンペーン報告

2009年8月、JTSでは北朝鮮の子どもたちに向けて生活必需品と医薬品を送るキャンペーンを実施しています。その内容をJTSが発行する機関紙「美しい世界」の報告記事を通して紹介します。(翻訳: KEY)

北朝鮮の子供たちに贈り物を送ります

8月14日(金)午後2時 仁川港で船積み式を行い

国際支援団体JTS(理事長 法輪)は8月14日(金)午後2時、仁川港で「北朝鮮の同胞に贈り物を送ります」と題した北朝鮮の子ども支援の船積み式が行われた。支援物品は布団(200枚余り)と衣類(14,000着)、靴(10,000足)、靴下(20,000足)、かばん(4,500個)、アトピークリーム(5,600個)など生活必需品で、20フィートコンテナ3台分の量だ。物品は仁川港を15日に出航して南浦港を通じて平安南道(平城市、新陽郡、成川郡)、江原道(元山市、文川市、法洞郡)の孤児院、養老院、特殊学校及び幼稚園、託児所、小学校の子ども約50,000余名に伝達する。現在、南北関係が閉塞し、対北支援が減少している状況だ。JTSの今回の支援が北朝鮮への人道的支援の扉を開くきっかけになってほしい。

JTSの「北朝鮮の同胞に贈り物を送ります」船積み式は、北朝鮮の子どもたちと住民たちのために多様な物品を送ってくれた後援団体、後援者がいてからこそ可能となったものである。衣類を支援してくれた모다끄레아 티피코시 영우패션(モダクレアティピコシオンウファッション)〈※〉、靴의카파코리아(Kappa コリア)、靴下の실머텍스(シルバーテックス)、アトピークリームの씨에이팜(シエイパム)、金泉禅院、直接布団を作ってくださった東鶴寺のお坊さんたちと、後援をされながら名前を名乗らなかつた全ての方々に感謝する。

JTSは物品支援のプロセスにおいて「愛する人に贈り物を送る心」をもちながら準備した。愛する人に送る贈り物のように、寄付を受けた物品を整理してボックスに入れた。物品を送るすべての

プロセスに真心と愛を込めた。北朝鮮に送る物品は特別に神経を使う。ボックスに物品を入れる時も乱れなく、JTSのボックスが壊れないように、箱を投げず、赤ん坊を扱うように大切に包装をした。

船積み式の準備のためのコンテナ作業を手伝いに8月7日(金)、蔚山に位置するJTS物流倉庫に集まったボランティアメンバーの大学生김영룡(キム・ヨンロン)は笑顔で「他のボランティアをする時とは違い、贈り物を準備する気持ちはしんどくないものではなく、楽しく参加しました。会うことはできないけど、この贈り物によって私の気持ちが伝えられたら嬉しいです」と話した。このような気持ちが余すところなく北朝鮮の子ども1人1人に伝えられるだろう。JTSは愛の贈り物を送ることで南北の子どもと住民たちの心が暖かくなる人の統一を作ろうと思う。

JTSの「北朝鮮の同胞に贈り物を送ります」船積み式行事にはJTSの後援団体であるソウルプンムルクッ会のシンミョンナムムが、分かれた民族を一つに繋ぐ、統一分かち合いの一環として、興味がわくように사물놀이(サムルノリ: 4つの楽器をつかった伝統音楽)で길놀이(キルノリ: 道を練り歩きながら行う演奏・演出の一種)をしてくれた。

【JTS 機関紙「美しい世界」通巻79号】

※모다끄레아 티피코시 영우패션(モダクレアティピコシオンウファッション)、의카파코리아(Kappa コリア)、실머텍스(シルバーテックス)、씨에이팜(シエイパム)は会社名です。

北朝鮮の子どもに、医薬品は愛です

北朝鮮の貧困階層に救急箱1万セットを送って

国際救護団体 JTS（理事長 法輪）は8月21日（金）午後2時、仁川港で「北朝鮮の子どもに、医薬品は愛です。救急箱1万セット伝達」船積み式を行った。150人余りの JTS 後援者たちが参加する中で行われた。

今回支援する物品は、ピンセット、ハサミ、ガーゼ、包帯、絆創膏、綿棒など 19 種類の基礎治療剤と傷治療剤、抗生剤、解熱剤、風邪薬など 4 種類の薬品を入れた救急箱1万セットで、20 フィートコンテナ5台の分量だ。

救急箱セットは仁川港を出発して南浦港を通り、平安南道（平城市、新陽郡、成川郡）、江原道（元山市、文川市、法洞郡）の孤児院、養老院、特殊学校および幼稚園、託児所、小学校子供に支援される。そして、慈江道熙川市にある発電所と平安南道の鉸山などで労働している貧困階層の青少年と労働者らに伝達されるだろう。

法輪理事長は「北朝鮮は2006年の大洪水以後、2007年、2008年に結核患者が急増し、結核患者治療が急を要します。子供たちが治療を受けられずにいて、怪我をする子供たちが多いです。農作業を機械でないツルハシやシャベルで、道はハンマーで岩をたたいて崩して作るのですが、そのような途中で怪我をする人がとても多いです。救急薬が至急必要な状況です。」と救急箱支援の必要性を強調され、「後援者に感謝申し上げます。前回の船積み式にも基本生活必需品を支援し、今回も基礎医薬品なので統一部も支援金を約束しました。さらに多い支援ができそうです。今後も多くの後援をお願いします。」と持続的な関心を訴えた。

放送人らのボランティア団体である길벗모임

（キルボツモイン：道連れの集い）のドラマ作家 노희경（ノ・ヒギョン）、俳優김여진（キム・ヨジン）さんと共に参加した演技者배종욱（ペ・ジョンオク）さんは「救急箱1万セットの支援が閉塞した南北関係の改善に資することを願い、意義深いことに参加することができてうれしいです」と挨拶を行った。また、国際ロータリークラブ 3690 地区의 정주화（チョン・ジュファ）前総裁も参加し「後援した寄付が傷ついた人々を治療できる救急箱となって伝達させるのを見ると非常にうれしいです」と挨拶の言葉を伝えた。

この日の行事は「ハムケヌリ」チーム의 풍물놀이（プンムルノリ：民族楽器をつかった演奏法）でキルノリをし、後援者らの「希望作り」パフォーマンスと発願文を朗読した後、救急箱を積んだコンテナを船にのせることで行事を終えた。

JTS は基礎医薬品を準備しながら後援者が求める透明性のために、入札公告を通じて品質を提供する企業を選定し、「小さい軟膏一つにも、救急箱とボックスにも JTS のロゴを印刷するなど、北側で救急箱を開けば後援者の暖かい気配りがそのまま伝えられるのを祈ります」と、近日中に痛む傷がいえることを願う心で最大限、精を尽くした。

また、物品の正確性のために救急箱を組み立てていた業者を訪問して、救急箱の中の一つ一つを確認してピンセット、ハサミ、ガーゼ、包帯、絆創膏、綿棒など 19 種類の内容物が正確に入っているのか、傷治療剤、解熱剤、風邪薬など 4 種類の薬品が入っているのか品質点検を徹底的に行った。

【JTS 機関紙「美しい世界」通巻 79 号】

国際機関情報

■食糧支援途絶え北朝鮮に餓死の懸念、WFP 報道官

国連世界食糧計画 (WFP) が、北朝鮮で外部からの食糧支援中断により餓死者が発生する懸念があると明らかにした。

WFP アジア事務所のリスリー報道官は 19 日、米自由アジア放送 (RFA) とのインタビューで「(北朝鮮での) 餓死者発生を大変懸念している。食糧支援を増やさなければ、栄養失調で多くの人が倒れ死ぬ可能性があり、懸念している」と述べた。北朝鮮住民の間からは米国の食糧支援に関する話や質問が多く聞かれ、米国の食糧支援が中断された理由を尋ねたり、いつ再開するかという質問を受けることも多いと伝えた。

これまで北朝鮮住民 150 万人に対し、4 人家族を基準に、1 週間にコメ 2 キログラムと穀物 1 キログラムを支援していたが、国際社会の支援が途絶えたことでこれもままならず、最近では半分や 4 分の 1 に供給量を減らしているという。

北朝鮮担当の報道官も、昨年収穫した食糧がすべて底を突いた上、この数カ月間、外部支援が途絶えており、北朝鮮住民の食糧事情は大変劣悪だと指摘。次の収穫期までが心配だと話している。

【2009 年 6 月 19 日 聯合ニュース】

■WFP、北朝鮮食糧支援を削減／過去最低と懸念

世界食糧計画 (WFP) のトーベン・デュエ平壤事務所長は 1 日、北京市内で記者会見し、北朝鮮側の要請により、6 月から食糧支援規模や現地駐在スタッフの人数などを削減したと発表した。デュエ氏は「WFP が (各国から) 十分な援助を得られないため、削減に応じた」と説明、「(支援規模は) 過去最低で、子供や女性を中心に食糧難は深刻な状況にある」と懸念を示した。

WFP は昨年 9 月から今年 11 月にかけ、5 億 400 万ドル (約 487 億円) 規模の緊急支援を計画。620 万人を対象に食糧支援を行う予定だったが、今回、援助対象を 227 万人に削減した。スタッフ数も 59 人から 16 人に削減、これまで許可されていた韓

国語を話せるスタッフの駐在は認められなくなった。

デュエ氏は、これまでに当初支援計画のわずか 15% に当たる約 7500 万ドルの資金しか調達できていないと指摘。5 月の核実験後、国際社会からの新規の援助はないという。

対北朝鮮支援をめぐるのは、米国が昨年、WFP などを通じ支援を再開したが、今年 3 月に北朝鮮側が支援拒否を通告している。

【2009 年 7 月 1 日 共同通信】

■北朝鮮 600 万人が食糧難、FAO 報告書

国連食糧農業機関 (FAO) は最新の作物予想および食糧事情報告書で、北朝鮮は食糧不足と海外援助の減少という二重苦から 600 万人以上の住民が今秋の収穫まで食糧難にあえぐと見通した。

自由アジア放送 (RFA) が FAO アジア太平洋地域責任者、チェン・ファン氏とのインタビュー内容を 8 日に報じた。同氏は、春に収穫した麦や新ジャガイモをほとんど消費した上、国際社会の支援もままならず、「北朝鮮の食糧事情は今が大変厳しい時期だ」と述べた。ことしは農事に良い天候に恵まれたが、肥料が十分に供給されず食糧生産に支障を来す見通しで、外部から 170 トン余りの支援を受ける必要があるとした。

気象問題で生産量が減ったとの見方には同意を示さず、「天気は良く、降水量も適度で、日照りのような自然災害もなかった」と説明した。それ以上に懸念されるのが肥料問題で、韓国からの肥料支援の中断がコメ生産量に大きく影響することが心配されると指摘した。

一部では北朝鮮食糧事情はさほど深刻ではないとの見解も出ているが、これに対しては「麦やジャガイモなどの 2 度目の収穫を最近行ったが、年間生産量の 10% にすぎず、収穫後 1~2 カ月の足しになるだけ」と説明した。今後数カ月以内に外部の食糧援助がなければ、北朝鮮住民の苦痛はさらに深刻になる可能性があるとして強調した。

【2009 年 8 月 9 日 聯合ニュース】

■北朝鮮女性の3分の1が栄養失調、WFP 報告

国連世界食糧計画（WFP）が、北朝鮮住民の栄養失調は深刻で、年内に援助を拡大しなければ数百万人が危険にさらされると警告した。WFP 北朝鮮事務所が先ごろ韓国開発研究院（KDI）の北朝鮮経済レビューに寄せた寄稿文「北朝鮮の食糧事情と人道的対北朝鮮支援」の内容を、企画財政部が7日に明らかにした。

それによると、国連が北朝鮮住民の栄養状態を調査した結果、5歳以下の子どもたちの37%が栄養失調で、女性の3分の1が栄養失調や貧血に苦しんでいるという。北朝鮮女性は標準体重以下の子どもを産み、多くの女性が栄養不足のため母乳を授乳できないと感じていると伝えた。また、慢性的なたんぱく質、脂肪、ビタミン・ミネラル不足は、子どもたちの成長と身体・精神的発達を阻害するだろうと指摘し、現在の北朝鮮の食事では、数日・数週間生活することはできるが、数カ月間続けば、ひどい場合は生命も脅かされるだろうと懸念を示している。

WFPは、2400万人の北朝鮮住民の基本的食糧を充足させるには、ことし180万トン近い食糧を輸入するか援助を受ける必要があると指摘した。化学肥料不足で10月の収穫結果が悪ければ、食糧難は来年も続く可能性が高いとみている。

また、平壤周辺の託児所、幼稚園、学校を訪れれば、栄養失調が世代間で繰り返されている様子を容易に目にすることができると強調した。北朝鮮の子どもたちは同一年齢の韓国の子どもたちに比べ背が低く、体重も少ないと指摘したほか、子どもたちは大変疲れていたり力がなく、大多数が活気がなく静かにいすや床に座っており、「こうした光景を見ることが多い人道的従事者も衝撃を受ける」と伝えた。

WFPは、年初から北朝鮮食糧援助プログラムに対する寄付が減少したことで、北朝鮮住民の生命が脅かされていると主張する。緊急救護活動に必要な5億400万ドル（約469億円）のうち、現在までに調達できたのは15%で、数百万人への食糧援助を中断するなど活動が縮小していると説明。11月以降にも追加の寄付がなければ、問題は深刻化すると訴えている。7月にWFP支援食糧の配給を受けることができた北朝鮮住民は当初計画の

620万人中130万人で、これ以上の寄付がなければ、数百万人を飢餓と栄養失調の危険に陥れるだけでなく、国の未来を脅かすことになる」と強調した。

【2009年9月7日 聯合ニュース】

■北朝鮮で食糧180万トン不足、FAO分析

国連食糧農業機関（FAO）が、ことしは北朝鮮でコメとトウモロコシの生産量が減少し、北朝鮮は今後170万～180万トンの食糧を外部から調達せねばならないとの分析を示した。米国の自由アジア放送（RFA）が24日に報じた。

肥料不足や農業機械の老朽化などで、北朝鮮のことしの予想コメ収穫量は240万～260万トンと、昨年と同水準かこれを下回る可能性があり、トウモロコシ収穫量も130万～200万トンと、例年より少ないものと見込まれた。

先ごろ訪朝した国際トウモロコシ財団の理事長も、聯合ニュースとのインタビューで、北朝鮮のトウモロコシ収穫量がことしは例年の250万トンから100万トン以上減るものと予想され、状況が深刻だと話していた。

【2009年9月24日 聯合ニュース】

■北朝鮮の穀物 来年にかけ125万トン不足— 国連食糧農業機関

国連食糧農業機関（FAO）は25日までに、北朝鮮の今年の食糧（穀物）生産が、比較的良好な気象条件に恵まれたにもかかわらず回復せず、今年から来年にかけて125万トンの輸入が必要となるとの見積もりを明らかにした。北朝鮮は引き続き国外からの食糧援助に頼らざるを得ない状況にあるが、国際社会による制裁強化に反発し、人道支援の受け入れの門戸を狭めており、食糧事情の悪化が懸念されている。

北朝鮮でのコメ、トウモロコシを主とする穀物全体の今年の収穫量は352万トン。食糧危機が叫ばれた昨年に比べると5.8%増となったものの、なお例年を大きく下回るレベルにとどまった。

北朝鮮は今年夏、比較的良好な気象条件に恵まれた。それでも収穫が平均を下回ったのは、世界的な資源高騰による肥料や燃料の不足の影響が大きいとみられる。北朝鮮での2009年度の肥料総

使用量は 44 万 6000 トンと、1989 年以来最低に落ち込んだ。

FAO の試算によると、この収穫量では北朝鮮は今年から来年にかけて、125 万トンの食糧不足に陥る。178 万トンが不足した前年よりは改善されたものの依然、深刻な食糧難が続くことになる。

しかし、北朝鮮の逼迫した財政状況では市場での調達には困難。国連や中国、韓国などからの食糧援助に頼らざるを得ないが、北朝鮮当局は国連傘下の援助機関に対し、援助物資の配布状況の監視縮小や、朝鮮語を解する監視員の受け入れ拒否を通告するなど、態度を硬化させている。このため、援助機関側も身動きが取りにくい状況にある。

【2009 年 11 月 25 日 聯合ニュース】

■北朝鮮、今年も深刻な食糧不足に見舞われる 恐れ＝FAO

国連食糧農業機関 (FAO) の緊急オペレーション部門の責任者、ダニエレ・ドナティ氏は、先週行った北朝鮮の視察を受け、同国が今年深刻な穀物不足に見舞われるとの見通しを示した。

「われわれは、北朝鮮が食糧の必要を満たすため、100 万トン超の穀物を輸入しなければならない可能性がある」と述べている。

FAO は、北朝鮮が食糧と家畜飼料、種子に必要な穀物を年間 510 万トンと試算。国連は、数百万人が十分な食糧を得ていないとしている。

FAO によると、今年の穀物不足は昨年と同程度になる見通し。

ドナティ氏は、バンコクからロイターの電話取材に応じ、北朝鮮の食糧不足は執拗だがおおむね安定していると指摘。FAO が来年初め、より詳細な調査結果を発表する予定だと述べた。

【2009 年 12 月 10 日 ロイター通信】

■来年春に FAO が北朝鮮で作況調査実施、VOA

国連食糧農業機関 (FAO) が来年 4～5 月ごろ北朝鮮に調査団を派遣し、作況調査を実施する予定だと、ボイス・オブ・アメリカ (VOA) が 15 日に報じた。

北朝鮮・平壤を先週訪問した FAO 緊急活動部門の責任者、ダニエレ・ドナティ氏は、VOA の電話取材に対し、作物が十分育ち収穫量が予測でき

る 4～5 月に専門家 4 人からなる調査団を北朝鮮に送り、農作物の実態や生産性、収穫量などを調べる計画だと明らかにした。北朝鮮当局も調査に肯定的な態度を示しているという。

FAO と世界食糧計画 (WFP) は、1995 年から 2004 年まで毎年 1～2 回、北朝鮮の招きで作況・食糧供給調査を行ったが、2005 年から 2007 年は中断された。昨年は 4 年ぶりに調査が再開されたが、ことしは北朝鮮当局からの招請がなかったため実施されなかった。

【2009 年 12 月 15 日 聯合ニュース】

■WFP「寄付急減で平壤事務所が閉鎖の可能性」

世界各国からの寄付が急減し、国連の世界食糧計画 (WFP) の北朝鮮への食糧支援も 7 月から中断する可能性がある、フィナンシャル・タイムズ紙が 4 日、報じた。WFP 平壤 (ピョンヤン) 事務所のトービン・デュー所長は、「6 月までは北朝鮮の子どもや妊産婦 140 万人に食糧を支援できるが、新しい寄付者が現われなければ、支援が 7 月に中断する恐れがある」と話した。国連関係者は、WFP 平壤事務所が閉鎖する可能性もあると見通した。

北朝鮮の食糧不足量は年間 100 万トンに達する反面、WFP の北朝鮮住民 1 人当たりの年平均援助金額は 4.5 ドルと低所得国家の 12%水準だ。そのうえ、北朝鮮食糧市場は、昨年のデノミネーション (通貨呼称単位の変更) で混乱に包まれている状態だ。北朝鮮に対する食糧寄付の急減は、北朝鮮が昨年 3 月、北朝鮮で食糧支援活動を行ってきた米国の非政府機構 (NGO) のモニタリング要員を追放し、支援活動家の接近を厳しく制限した影響が大きいという。また、北朝鮮が、昨年 4 月の長距離ミサイルの発射と 5 月の核実験を強行したことも、寄付減少の原因と見られている。

WFP 関係者は、「過去にも、寄付者が長期的な寄付に疲れて『支援疲労感 (donor fatigue)』が現われたこともあったが、今回はより深刻な状況だ。米国も、食糧が誰に伝わるか確認できなければ追加の支援はないとしており、冷淡な反応を見せている」と話した。

【2010 年 3 月 5 日 東亜日報】

■WFP「国連の対北朝鮮食糧支援、6月末まで可能」

世界食糧計画（WFP）は3日、北朝鮮の核実験実施後、国際社会の支援が減少したため、国連の対北朝鮮食糧支援は来月末まで可能だと明らかにした。

北京駐在のWFP報道官はブルームバーグ通信との電話インタビューで、6月までは北朝鮮への支援が可能だが、支援が継続されるためには寄贈者が至急必要だと訴えた。また、WFPは現在、北朝鮮への支援を続けるため、支援供与国と協議中だと述べた。

北朝鮮は1990年代半ば、洪水による飢饉（ききん）発生後、食糧調達の大部分を外部からの支援に依存してきた。

外部からの食糧支援の減少は、2009年の核実験実施に伴う国連安全保障理事会の制裁や失敗に終わった昨年のデノミネーション（通貨呼称単位の変更）などとともに、金正日（キム・ジョンイル）政権に対する圧迫につながるとみられる。

韓国農村経済研究院によると、北朝鮮ではことし少なくとも100万トンの食糧が不足すると予想されている。しかし、WFPは基金不足により当初予想の620万人より少ない150万人の北朝鮮住民に支援を提供できるとみている。

特に、昨年は北朝鮮に支援される食糧が北朝鮮の特権層に配分されることを懸念した国際社会が支援を避けたため、北朝鮮の食糧難は悪化している。

【2010年5月3日 聯合ニュース】

■北朝鮮への食糧支援、WFPが2年延長を計画

世界食糧計画（WFP）は、2008年9月に始まった対北朝鮮緊急援助事業が6月末で終了することに伴い、2012年6月までの2年期限で新たな救援復旧事業の推進を計画している。米国营放送ボイス・オブ・アメリカ（VOA）が27日に伝えた。

VOAは、先ごろWFP理事会に提出された、北朝鮮に対する長期救援・復旧事業に関する報告書を引用し、WFPは向こう2年間、慈江道と両江

道を除く北朝鮮内7道・60郡の児童擁護施設、学校などを中心に、食糧を支援する計画を明らかにした。

同報告書は、来月初めにWFP本部で開かれる理事会に付託される。最終協議を経て、承認可否が決まる。

報告書によると、食糧支援対象は従来の6道・62郡・200万人から、7道・60郡・250万人に拡大される。特に、子ども、妊産婦、乳児を持つ母親など弱者層への食糧供給の強化が予想される。問題となっていた「分配監視」と関連しては、食糧の到着から郡単位機関で対象者に支援されるまでの全過程を見守るとしている。

【2010年5月27日 聯合ニュース】

■北朝鮮の乳幼児、19%は低体重・32%は発育不振

国連世界食糧計画（WFP）と国連児童基金（ユニセフ）が昨年9月末から約1か月間、北朝鮮の300か所で7500世帯を対象に調査を実施した結果、5歳以下の児童の19%が低体重で、32%は同年代に比べ身長が低いことが分かった。米国营放送ボイス・オブ・アメリカ（VOA）が9日に伝えた。

ただ、2000年に行われた調査の結果（低体重28%、発育不振45%）に比べると好転した。数百万人が餓死したとされる「苦難の行軍」がピークに達していた1998年に7歳未満の児童を対象に行った1回目の調査では、低体重が60%に達した。

また、昨年の調査では、北朝鮮の産婦と授乳期の女性のうち、28%が栄養失調であることが明らかになったが、2004年の32%に比べるとやや改善した。

一方、統一部は8日、乳幼児用の粉ミルクや牛乳など、対北朝鮮支援団体の支援物資搬出2件を認めた。人道支援物資の搬出承認は、北朝鮮魚雷攻撃による韓国哨戒艦「天安」沈没事件後、初めてとなる。

【2010年6月9日 聯合ニュース】

その他の情報

■統一部、対北朝鮮支援民間団体に訪朝自粛を勧告

北朝鮮軍部が韓米合同軍事演習「キーリゾルプ」の期間中（9～20日）に南北間軍通信ラインを遮断すると発表したことを受け、統一部は朝鮮半島における軍事情勢の緊張がさらに高まるものとみて、同期間中に第三国経由で訪朝予定の対北朝鮮支援民間団体にに対し訪朝自粛を勧告している。勧告を受け、一部の団体は計画を撤回したという。

統一部関係者は「10以上の対北朝鮮支援団体が訪朝する予定だったが、現在の状況を懸念する団体から問い合わせの電話が相次いでいる」とし、身の安全のためにも慎重に考慮するよう呼びかけていると説明した。

一方、「わが民族助け合い運動本部」のホン・サンヨン局長は、「10日に中国を通じて2人が平壤を訪れる予定だったが、北朝鮮側から招請状が届かず、送ってくれるよう要請したところ、21日ごろに（訪朝）計画を延期してほしいとの返答があった」と話した。同団体は当初、招請状が発給されれば南北の軍事緊張状況とは関係なく10～11日に訪朝し、保健医療・農業開発事業を協議する予定だった。

また、軍事演習終了後の21日から25日にかけて訪朝を予定している団体は、南北当局の状況が困難なときほど民間が役割をきちんと果たす必要があるとし、計画通り訪朝する意向を示した。

【2009年3月9日 聯合ニュース】

■政府が民間の対北朝鮮支援事業を支援、35億ウォン

政府は3日、国内の民間団体が進める北朝鮮向け人道的支援事業に対し35億ウォン余りを支援することを決めた。統一部が明らかにした。

政府は先ごろ、関係官庁の次官で構成された南北交流協力推進協議会が第218回会議を書面で開催した結果、民間10団体の北朝鮮向け人道的支援事業に対し、マッチングファンド式で南北協力

基金から事業運営管理費を含め約35億7300万ウォン（約2億7700万円）を支援することにした。

政府の今回の決定は、民間を通じた間接支援ではあるものの、北朝鮮が4～5月に行った長距離ロケット発射と2回目の核実験のために保留していた政府レベルの人道的な対北朝鮮支援を再開するという意味を持つ。今回の支援対象は、住民生活への寄与度、緊急性、支援効果などにに基づき、乳幼児・妊婦・障害者ら弱者を対象とする事業が選ばれた。

政府はことし、対北朝鮮支援団体にに対しマッチングファンド式で南北交流協力基金から例年水準の100億ウォンを支援するとの計画を立て、2～3月に民間団体から基金支援申請を受け付けた。当初は4月末までに基金支援の議決を終える計画だったが、北朝鮮が3月30日に現代峨山社員を抑留したのに次いで4月5日に長距離ロケットを発射し、5月25日には2回目の核実験を断行したことで北朝鮮に対する世論が悪化し、基金支援を保留してきた。

【2009年8月3日 聯合ニュース】

■統一部長官、対北朝鮮人道支援の再開に言及

統一部の玄仁沢（ヒョン・インテク）長官が27日、国会外交通商統一委員会の非公開懇談会で、対北朝鮮人道支援を開始する意向を明らかにした。支援の再開有無を問うハンナラ党議員の質問に答えたもの。支援の手続きについては、国連機関を介して援助するが、乳幼児や疾病に関しては民間機関でも支援すると説明した。ただ、支援再開時期には言及しなかった。

一方、北朝鮮が近ごろ融和ジェスチャーを送っている背景に対しては、北朝鮮は食糧難に直面し、保有する現金も減少するなど経済状況が苦しいと説明した。瀬戸際戦術で国際社会を圧迫し、補償を得るという形態を取っていた北朝鮮が、2回目核実験後は韓米が予想より強力な対応に出たことから、状況を打開するため立場を変えたようだ

話している。

また、先ごろ故金大中（キム・デジュン）元大統領の弔問のため訪韓した北朝鮮の使節団が、李明博（イ・ミョンバク）大統領に伝えた金正日（キム・ジョンイル）総書記のメッセージと関連しては、南北首脳会談に関する事項は含まれていないと明らかにした。

【2009年8月27日 聯合ニュース】

■北朝鮮食糧、今年100万～120万トン不足見込み

北朝鮮は、国際社会の支援がなければ今年100万～120万トンの食糧が不足するものと見込まれる。

韓国農村経済研究院が8日に出した今年の北朝鮮食糧需給見通しによると、昨年秋から今年夏までの北朝鮮穀物生産量（精穀ベース）は380万～400万トンと推算された。

国連食糧農業機関（FAO）が推定した352万トンに、北朝鮮で食糧として利用されるジャガイモの生産量を追加し、トウモロコシについてはFAO推定よりも生産が減る可能性を考慮して修正した。

一方、今年の北朝鮮の穀物所要量は523万トンと推定された。内訳は食用が405万8000トン、飼料用が30万トン、種子用が17万トン、加工用が12万2000トン、収穫後の損失量が58万トンなど。

北朝鮮の人口を2430万人と仮定し、食用需要を最低水準に落として算出した数値だが、それでも食糧生産量は最低需要量より120万～140万トン少なく、商業取引での輸入量が20万トンとしても100万～120万トンが不足する。北朝鮮の食糧事情は国際社会の支援いかににかかっていると、研究院は説明した。

【2010年3月8日 聯合ニュース】

■統一部、政府省庁に対北支援事業の保留を要請

統一部が対北朝鮮経済協力事業を行っている企業（対北経協企業）に新規契約や物品搬出などを留保するように呼びかけたことに続き、政府予算が投じられる関連省庁の対北朝鮮支援事業を見合わせるように公式的に要請したことが、17日確

認された。

千海成（チョン・ヘソン）統一部報道官は、「14日企画財政部、保健福祉部、森林庁など、10の関連省庁に公文を送り、各省庁の予算の中から、投じられる対北事業を暫定的に見送ってほしいと要請した」と明らかにした。さらに千報道官は、「今回の措置は、金剛山（クムガンサン）での不動産凍結、没収など最近ギクシャクしている南北関係などを考慮したものだ」と説明した。

政府はまた、関係省庁が現在、手がけている対北事業の実態把握にも乗り出した。昨年の場合、各省庁が確保した対北支援事業予算は、60億ウォン程度だった。これに先立ち、統一部は11、12日に、開城（ケソン）工業団地に入居している企業を除く対北経協企業に電話をかけ、新たな契約と投資、訪朝などを控えるように要請した。

このような一連の措置が天安（チョナン）艦沈没を受けた政府の対応措置か、という分析が出ると、統一部の関係者は、「南北関係が冷え込み、不安定な状況であるため、リスクを減らすため、予備的に関係省庁に呼びかけたのだ」と説明した。玄仁澤（ヒョン・インテク）統一部長官も、同日記者らに会い、「（まだ）北朝鮮に対する実質的な措置を取ったとは言いがたい」と一蹴した。

政府当局者らは、「すでに取った予備措置とは関係なく、乳幼児など北朝鮮の脆弱階層に対する人道的な支援事業を続ける。世界保健機関（WHO）など、国際機関に支援する形の対北朝鮮人道的支援も続けられるだろう」と明らかにした。

【2010年5月18日 東亜日報】

■韓国：対北人道支援2件を承認 統一省

韓国統一省は9日、民間団体による対北朝鮮人道支援2件を8日に承認したことを明らかにした。いずれも乳幼児の粉ミルクなどで、支援規模は計4億ウォン（約2950万円）。「北朝鮮の魚雷攻撃」とする海軍哨戒艦沈没事件の調査結果を受け、韓国政府は北朝鮮との交流中断を発表したが、一部人道支援については継続を決めていた。

【2010年6月9日 毎日新聞】

2009 南北コリアと日本のともだち展（東京展）

(09/10/23-25)

今年も、南北コリア、日本に住む子どもたちの絵画展「南北コリアと日本のともだち展」東京展が10月23日～25日の3日間、青山こどもの城ギャラリーで開催されました。2001年から始まったこの絵画展も9回目を数えます。KEYは今年も実行委員会に加わりました。

今年のともだち展は、これまでとはちょっと違った形で進行しました。まず5月に東京で子どもたちのワークショップを開催。ここには、韓国の協力団体である「オリニオックドナム」から子ども7名と、韓国の絵本作家・柳在守さんが来日し、日本・在日の子どもたちと一緒に「平和の木」という大きな絵を共同制作しました。ただこの時「平和の木」は全部描き上げたわけではありません。残りは、ここには集えない平壤の子どもたちに描いてもらうために、8月下旬に実行委員会メンバーや朝鮮学校の学生・先生らが平壤を訪問しました。今年は、政治的状況がかなり悪化していることも影響して、平壤での絵画展示はできませんでしたが、「平和の木」の制作と、今回の東京展のための絵画を描いてもらいました。この時は「ちからたろう」などで有名な絵本作家の田島征三さんが同行され、平壤の小学校での絵の制作を大きく助けてくださったそうです。

9月にはソウル展を予定していたのですが、韓国でも新型インフルエンザが流行しており、それが原因で直前で急遽開催が中止になるというハプニングがありました。ですが、東京展は当初の予定通り開催することができました。

今回は、日本、南北朝鮮の子どもたちの絵画200点以上とともに、目玉となる「平和の木」、ともだち展の年表、メッセージコーナーなど、例年に劣らず多彩な展示内容で「こどもの城」のギャラリーを埋め尽くしました。

24日(土)午後には、前述の柳在守さんと田島征三さんという日韓の絵本作家によるトークイベント「くりむトーク」が行われ、約60名が集まりました。最初に今年のともだち展の流れや、平壤訪問の報告が実行委員会からなされた後、メインとなる二人の対談に。今回の絵画展に多大なご協力をされたお二人から、今回のともだち展に関わられての思いや、昔お二人が出会ったときの思い出、朝鮮民主主義人民共和国、朝鮮半島に対する考えなど、これまた多彩な内容にわたった話が展開されました。それが決して重い雰囲気ではなく、会場の笑いもよく誘うような、非常に楽しい雰囲気で行われたのが非常に印象的でした。終了後はギャラリーに移動して、懇親会が開かれました。テレビ取材陣も複数来ており、作家のお二人や、当日来ていた朝鮮学校の生徒たちがインタビューを受けたりしました。

もともと北への人道支援を行うNGOが、支援活動だけではなく日朝、あるいは日本と朝鮮半島の関係改善に不可欠な民間レベルの相互理解を育もうと始めた、この「ともだち展」。その後の政治状況や日本の国内世論を受けて、今も食糧難という状況が続いているにも関わらず日本内の人道支援活動は大きく縮小したままですが、「状況が難しい」と悲嘆にくれるだけでは何も変わらない—そういう思いをこの間強くしています。このともだち展は「継続は力なり」をまさしく体現している取組みで、KEYが1回目から継続して参与してきたことの意味をあらためて感じる良い契機となりました。

*ともだち展の詳細は、<http://homepage2.nifty.com/2002/friends/index.html>

(筆・金朋央)

咸鏡北道オリニ結縁募金 募集中！

KEY では(社)韓国 JTS が行う北朝鮮・咸鏡北道地域の子どもたちへの支援活動に協力しています。1998～2006 年には、JTS による羅先市(以前は羅津・先鋒)の幼稚園や託児所の子どもたちへの栄養食支援に協力する「羅先オリニ結縁事業」を展開してきました。しかしながら、諸事情により 2007 年から JTS が羅先における支援活動を中止するに至りました。このような状況にあっても、北朝鮮に対する食糧支援の必要性は変わらず存在するため、新たに「咸鏡北道オリニ結縁募金」と称する募金活動を 2008 年 8 月より開始することにしました。

(JTS は、平壤以外の地域に人道支援を行っている数少ない民間団体の一つです。)

集まったお金は KEY で責任を持って管理し、JTS が咸鏡北道の子どもたちに対する食糧支援を行う時に、その用途に充ててもらう形で募金を伝達します。募金を伝達した時は、結縁者(協力者)にメールにて報告します。

結縁とは、咸鏡北道の子どもたちと「縁を結ぶ」ことを意味しています。結縁者は縁を結んだ子どもたちに食糧や生活物資が供給されることを金銭で支援します。分かち合いの心が、隣に生きる人に生の希望を伝える便りを運びます。皆様のご協力をよろしくお願いします。

【結縁形態】①年間結縁：1 ヶ月 500 円を一口とし、1 年単位の協力をお願いします。
(1 年一口で 6,000 円になります。口数は自由です)

②個別結縁：上記年間結縁だけでなく、随時の募金も募集しています。

ニュースレター「North Korea Today—食糧消息—」

KEY は、JTS 及び北朝鮮住民の人道的支援と人権改善に従事する 좋은 벗들 (Good Friends) の両団体が発刊するニュースレター(韓国語)のうち、食糧事情・食糧支援に関する部分を翻訳し、ニュースレター「North Korea Today—食糧消息—」として月 1 回(毎月 15 日)発行しています。(両団体の承諾は受けています)多くの方に読んで頂き、北朝鮮の実情を知る機会にして頂きたいと考えておりますので、ぜひご登録下さい！(※登録はご本人様に行って頂く必要があります)

登録は右記のサイトから行えます ⇒ http://www.key-j.org/info/news_nkt.html

問い合わせ・申し込みは在日コリアン青年連合 (KEY) 事務局まで

〒544-0004 大阪市中央区玉造 1-13-1-3F

【TEL】06-6762-7261 【FAX】06-6762-7262 【E-mail】info@key-j.org

【URL】<http://www.key-j.org/>

郵便振替 [番号] 00920-1-132271 [加入者名] 在日コリアン青年連合

※この「結縁通信」では、朝鮮民主主義人民共和国の略称として北朝鮮という略称を使用しています。